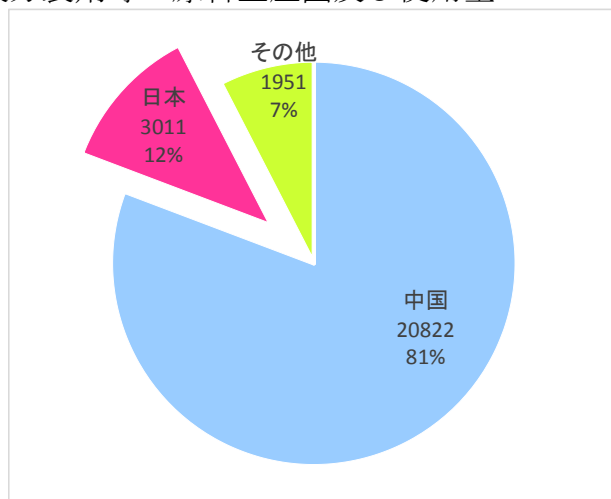


【薬用作物の動向】

1 生薬の需要量

漢方製剤等の原料となる生薬の年間使用量は約 26 千トン（H24 年度）であり、このうち、国産は約 3.0 千トンと全体の約 12 %である。

図1 漢方製剤等の原料生産国及び使用量



出展：日本漢方生薬製剤協会

漢方製剤等は医療現場におけるニーズが高まっており、その生産金額は平成 18 年～ 26 年の間に 38 %増加し、1,611 億円（平成 26 年）となっている。その原料となる生薬の需要量は、今後とも増加が見込まれるところである。

表1 漢方製剤等の生産金額の推移

(単位：億円)

H18	19	20	21	22	23	24	25	26
1,169	1,228	1,270	1,385	1,366	1,422	1,519	1,599	1,611

資料：厚生労働省「薬事工業生産動態統計調査」

* H26 の内訳 医療用 1,280、一般用 321

2 薬用作物の生産状況

生薬の原料として栽培されている薬用作物の生産量は、年次ごとの増減はあるもののおおむね増加傾向で推移している。平成 25 年産の全国の栽培戸数は 4,341 戸で、うち管内は 674 戸で 16 % を占めている。

表2 薬用作物の生産状況の推移

	栽培戸数(戸)	栽培面積(a)	うち転作(a)	生産量(kg)
平成12年	8,635	123,742	18,649	10,882,886
17年	6,098	118,794	4,564	6,137,842
18年	6,192	113,821	9,247	5,688,757
19年	6,290	114,293	13,532	7,931,411
21年	6,372	183,896	43,151	9,311,548
22年	5,585	172,771	45,740	5,161,525
23年	11,634	362,195	94,742	25,229,635
24年	5,958	180,945	56,148	6,528,989
25年	4,341	140,780	40,501	4,109,373

資料:公益財団法人日本特産農産物協会「薬用作物(生薬)に関する資料」

表3 薬用作物の生産状況(平成25年)

	栽培戸数(戸)	栽培面積(a)	うち転作(a)	生産量(t)
茨城県	35	1,149		191,675
栃木県	76	8,243	7,635	204,631
群馬県	133	2,827		333,339
埼玉県	2	63	0	250
山梨県	41	617	70	18,674
長野県	321	3,575	33	104,936
静岡県	66	645	90	1,850
管内計	674	17,119	7,828	855,355
全国	4,341	140,780	40,501	4,109,373
全国シェア	15.5	12.2	19.3	20.8

資料:公益財団法人日本特産農産物協会「薬用作物(生薬)に関する資料」

表4 管内で栽培されている主な薬用作物と産地等

県名	薬用作物名	市町村	主な生産グループ
茨城	カノコソウ、トウキ、ミシマサイコ、キキョウ	石岡市	常陸生薬栽培組合
栃木	ウコン、トウキ、ドクダミ、ハトムギ、ビャクシ、ミシマサイコ	益子町、壬生町、鹿沼市、茂木町、小山市、佐野市、那須塩原市	下野農協、壬生町薬草生産出荷組合、上大貫うこん栽培愛好会、小山はとむぎ生産組合、茂木はとむぎ研究会、(有)農業生産法人かぬま
群馬	ウコン、シャクヤク、トウキ、トチュウ、ミシマサイコ	沼田市、東吾妻町、高山村、渋川市、中之条町、榛東村、甘楽町、富岡市	JA 利根沼田、JA 赤城たちばな、JA あがつま薬草生産部
埼玉	ウコン、カミツレ、キキョウ、クコ、サフラン、サンショウ	宮代町、春日部市	
山梨	ナンテン、ククイモ、クワ、ウコン、ヤーコン、ナタマメ	身延町、大月市、市川三郷町、鳴沢村	(株)桑郷、野草のさと大月加工センター
長野	アマチャ、ウイキョウ、オオバコ、オタネニンジン、カノコソウ、カミツレ、ジオウ、シャクヤク、センキュウ、センブリ、トウキ、ドクダミ、ルバーブ、ククイモ、ヤーコン、サフラン	上田市、伊那市、佐久市、東御市、立科町、長野市、上田市、大町市、塩尻市、佐久市、北相木村、小谷村、安曇野市、長和町、青木村、上田市、中野市、飯山市	佐久浅間農業協同信州人蔘センター、上田薬草の会、センブリ部会 (株)光変換光合成促進農法、(株)岡谷組、薬草研究会
静岡	オウレン、キジツ、トウキ、ミシマサイコ	藤枝市、富士宮市、東伊豆町、河津町、森町、掛川市、袋井市、牧之原市、菊川市、御前崎市	藤枝市薬用農作物生産出荷組合アグリフューチャー藤枝、富士宮農業協同組合薬用植物栽培部会、JA 伊豆太陽

資料：公益社団法人日本特産農産物協会「薬用作物（生薬）に関する資料」（平成 28 年 3 月）から抜粋

3 輸入

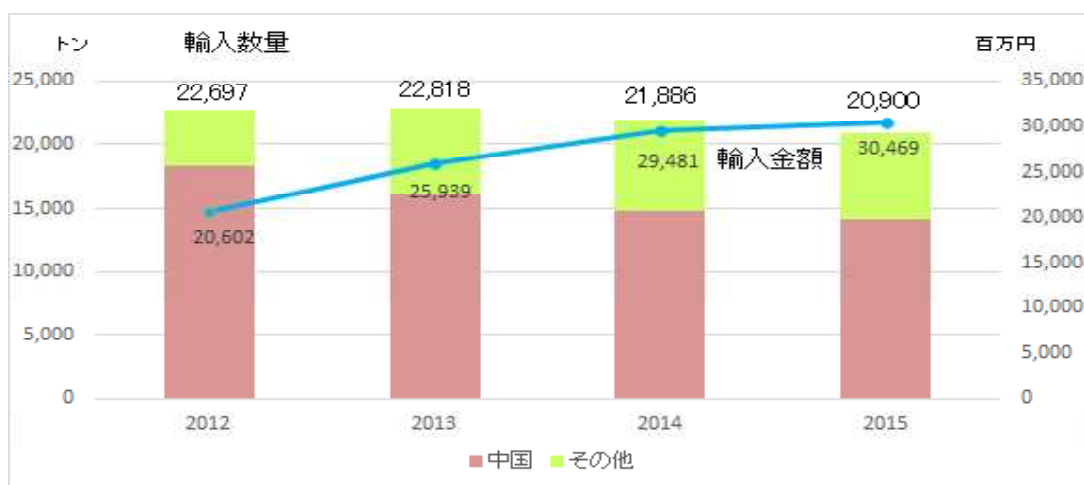
我が国における漢方製剤等の使用量の増加に伴い、その原料となる生薬の輸入量も増加傾向にある。生薬の輸入量の7割、輸入金額の8以上は中国産となっている。

表5 生薬の輸入数量等の推移（年度）

	2012		2013		2014		2015	
	輸入数量	輸入金額	輸入数量	輸入金額	輸入数量	輸入金額	輸入数量	輸入金額
各国計	22,697	20,602	22,818	25,939	21,886	29,481	20,900	30,469
うち中国	18,288	18,288	16,087	22,809	14,754	25,545	14,121	25,117
割合	81	89	71	88	67	87	68	82

資料：財務省「貿易統計」（分類番号 1211.20.000、1211.90.110,120,190,931,939,999）

図2 薬用作物の輸入状況



なお、中国では、①経済発展により中国国内での薬用作物の需要量が増加していること、②乱獲により自生の薬用作物が減少していること、③甘草等の一部の薬用作物に環境保全等を目的に輸出制限を課していること等から生薬の輸入価格は上昇している。

表6 カンゾウの輸入平均単価の推移

(単位：円/kg)

2011	2012	2013	2014	2015
539	668	978	999	1163

資料：財務省「貿易統計」